

第405回プレミアム定期演奏会 大阪公演

広島

HIROSHIMA
SYMPHONY
ORCHESTRA

交響楽団

「讃々」平和を讃えて

「ピアノ」小山実稚恵

Michie Koyama, Piano

© ND CHOW



ベートーヴェン ピアノ協奏曲 変ホ長調 作品73 「皇帝」

〈ベートーヴェン・コンチェルト・シリーズ〉

Beethoven: Piano Concerto No.5 in E-flat major Op.73 "Emperor"

ブルックナー 交響曲 第4番 変ホ長調 「ロマンティック」(ハース版)

Bruckner: Symphony No.4 in E-flat major "Romantic" (Haas Edition)

〔指揮〕下野竜也

Tašuya Shimonio, Conductor

※出演を予定しておりましたゲルハルト・オピッツが新型コロナウイルスの影響により来日が間に合わないためソリストを変更致しました。

2020 11.15 (日) 14:00開演 (13:00開場) ザ・シンフォニーホール 全席指定 5,500円(税込)

主催:公益社団法人 広島交響楽協会 / ザ・シンフォニーホール 運営協力:コジマ・コンサートマネジメント

発売日 広島事務局 / 2020年10月13日(火) 9:00~

ご予約・お問合せ ■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(火曜定休) <http://www.symphonycall.jp>

プレイガイド

■広島事務局 082-532-3080(平日9:00~17:20) <http://hirokyo.or.jp> ■e+(イープラス) <https://eplus.jp/symphonycall> (パソコン・携帯)

■ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード:54090] ■チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:179-302]

[SNS割引サービス] チケット発売後2020年10月31日(土)までに、当コンサートのことをご自身のFacebook、twitter等でご紹介いただくとチケット料金を1,000円引きいたします。

広島事務局へFacebook、twitter等のURL情報をお送りください。詳しいお申込み方法は広響のホームページをご覧ください。

※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合はございます。予めご了承ください。

広島交響楽団

“讃” 平和を讃えて

昨年8月、広島交響楽団はワルシャワでの「ショパンと彼の時代のヨーロッパ」音楽祭に出演。立ち見が出るほどの盛況ぶり、メディアも大きく取り上げた。今年は被爆75年…広島も「“讃”～平和を讃えて」をテーマに活動を展開。そして、3年ぶりにザ・シンフォニーホールに登場する。「プレミアム」定期演奏会として大阪と広島で演奏されるのは2曲。まず、広響の「ベートーヴェン・コンチェルト・シリーズ」の集大成となるベートーヴェン《ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」》では、小山実稚恵が登場。共演者からも信頼の厚い名手の「皇帝」に、期待が膨らむ。また、広響×下野竜也はブルックナーを毎年1曲演奏しており、今年は《交響曲 第4番「ロマンティック」》だ。ウィーン由来の2曲を、その地に学んだ下野がどのように聴かせるだろうか。

文 道下京子

下野竜也 [指揮] Tatsuya Shimono, Conductor

広島交響楽団音楽総監督(2017年4月～)、広島ウインド・オーケストラ音楽監督(2011年1月～)。

鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール<指揮>優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年ブザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴びる。

国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チェコフィルハーモニー管、シュツットガルト放送響、シリコンバレー響など国際舞台での活躍が目覚ましい。

これまでに読売日本交響楽団初代正指揮者、同首席客演指揮者、京都市交響楽団常任客演指揮者、同常任首席客演指揮者を歴任。

京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授、東京音楽大学吹奏楽アカデミー特任教授、東京藝術大学音楽学部指揮科非常勤講師として後進の指導にもあたる。

太鼓芸能集団「鼓童」ミュージックアドバイザー。鹿児島市ふるさと大使。おじゃんせ霧島大使。

公式ホームページ <http://www.tatsuyashimono.com/>



小山実稚恵 [ピアノ] Michie Koyama, Piano

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールの二大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、常に第一線で活躍し続けている。2017年までの『12年間・24回リサイタルシリーズ』は、演奏内容と企画性に於いて高い評価を受けた。2019年から『ベートーヴェン、そして…』がスタート。これまで、国内外の主要オーケストラ、国際的指揮者との共演も数多い。協奏曲のレパートリーは60曲を超える。東日本大震災以降、被災地でも演奏を行い、仙台では被災地活動の一環として自ら企画立案した「こどもの夢ひろば“ボレロ”」を開催している。CDは、ソニー・ミュージックジャパンインターナショナルと専属契約を結び、最新盤は2020年7月にリリースした自身初のベートーヴェンのソナタ録音『ハンマークラヴィーア・ソナタ他』である。著書に『点と魂と』、平野昭氏との共著『ベートーヴェンとピアノ「傑作の森」への道のり』、『ベートーヴェンとピアノ 限りなき創造の高みへ』がある。これまで文化庁芸術祭大賞、東燃ゼネラル音楽賞本賞、文化庁芸術祭優秀賞、芸術選奨文部科学大臣賞等を受賞。2017年度には紫綬褒章を受章。



広島交響楽団 Hiroshima Symphony Orchestra

国際平和文化都市“広島”を本拠地に“Music for Peace～音楽で平和を”をテーマに活動するプロ・オーケストラ。2017年より下野竜也が音楽総監督を務め、その意欲的な音楽づくりが注目を集めている。

クリスティアン・アルミンクが首席客演指揮者、秋山和慶が終身名誉指揮者を務めるほか、ウィーン・フィル、コンサートマスターのフォルクハルト・シュトイデをミュージック・パートナーに、細川俊夫をコンポーザー・イン・レジデンスに迎えている。また、ピアニスト、マルタ・アルゲリッチには広響「平和音楽大使」の称号を贈り、相互に平和を希求する音楽活動を続けている。

1963年設立。学校での音楽鑑賞教室や社会貢献活動にも積極的に取り組み、地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれ、海外ではオーストリア、チェコ、フランス、ロシア、韓国、ポーランドで公演を行い音楽による平和のメッセージを発信している。

「第5回国際交流奨励賞」「文化対話賞(ユネスコ)」「広島市民賞」ほか受賞。

公式ホームページ <http://hirokyo.or.jp>

